

運輸新聞の広告スペースは 物流に携わるすべての方々への凝縮された情報スポットです。

● 広告掲載料金	*4色は20%増	
	天地×左右(mm)	料 金(円)
全 1 段	35×250	50,000
全 2 段	70×250	100,000
全 3 段	105×250	150,000
全 4 段	140×250	200,000
全 5 段	175×250	250,000
全 11 段	385×250	550,000

全 3 段 (4C例)

CREATE THE TOMORROW  
物流から、明日を創る。  
センジョーグループ  
センジョーグループホールディングス株式会社 <https://www.senjyogroup.co.jp>

モノを動かす技術を、価値を創り出す技術に。  
保潔、搬送、仕分け・ピッキングにおける自動化システムで技術革新に軸足を据え、3D画像AI、ロボティクスを駆使して新しい価値を創造し、お客さま企業に最適なシステムを提供してまいります。

DAIFUKU Always an Edge Ahead  
株式会社ダイフク [www.daifuku.com/jp](http://www.daifuku.com/jp)

全 4 段 (4C例)

SAGAWAなら、お応えできます。  
いま、最先端で求められるサプライチェーンの見直し、そして改革。SAGAWAの「GOAL」なら、どんな課題にもお応えできます。

御社のビジネスに、最適な物流をプロデュース。  
SAGAWAの「GOAL」  
佐川急便株式会社 SAGAWA

全 4 段 (1C例)

陸も海も空も  
手軽に使えるサイズのBOXを利用したマルチモードユニットサービス  
NEW プロテクトBOX ビジネス  
We Find the Way  
日本通運 NIPPON EXPRESS  
詳細はWebでCheck! [2727.jp/BOX](http://2727.jp/BOX)

全 3 段 (1C例)

鉄の道。  
JR貨物グループ  
挑戦、そして変革

ビジネスのすべてに、ひとつで挑む。  
4月1日、ヤマトは生まれ変わります。グループ各社を統合し、新しい「ヤマト運輸」として再出発します。産業のBC化が加速し、物流関連そのものが大きく変化している中、グループが持つ総合資源をひとつにまとめ、「輸送のラストワンマイル」だけでなく、お客さまの「ビジネスのすべて」に関わる存在になりたいと願っています。全国、そして海外のネットワークをシームレスに繋ぎ、デジタルによって可視化することで、サプライヤー・メーカーから店舗・生産者にいる、サプライチェーン全体を支援するビジネスパートナーを目指します。また、ビジネスのお客さま、一般のお客さま、社会、運び物、それぞれがともに発展できる持続可能な物流をつくりたい。これまで培ってきた知見とネットワークを継ぎ、テクノロジーを組み合わせながら、すべてのお客さまの多様なニーズを叶えてゆく。社員一人ひとりが「プロフェッショナル」として、皆さまのサプライチェーンに寄り添ってまいります。その意志を込めた、新しい2つのマークとともに、これからのヤマトに、どうぞご期待ください。

次の運び方をつくる。

ヤマト運輸

全 11 段 (4C例)

物流を見つめ続けて一世紀

# 運輸新聞

タスロイド判・4ページ(特集増ページ) 発行部数—48,200部 発行人—野田裕之 購読料金—3,600円/月(送料・税込) 火・金発行(祝日休刊)

## 会社概要

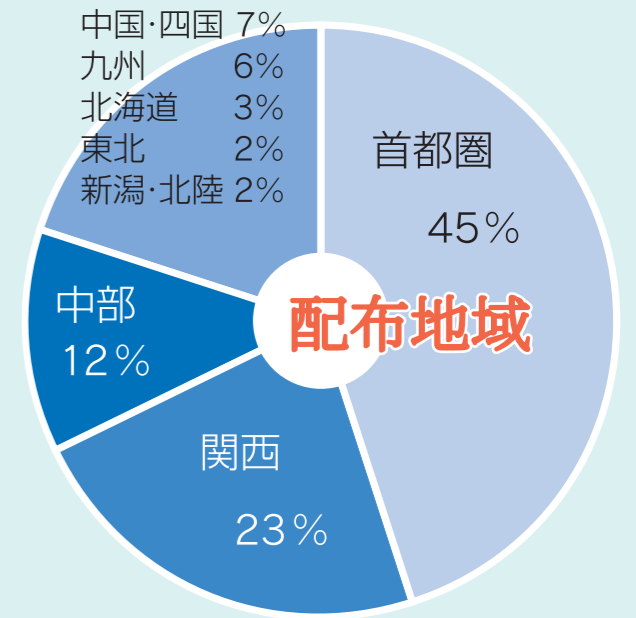
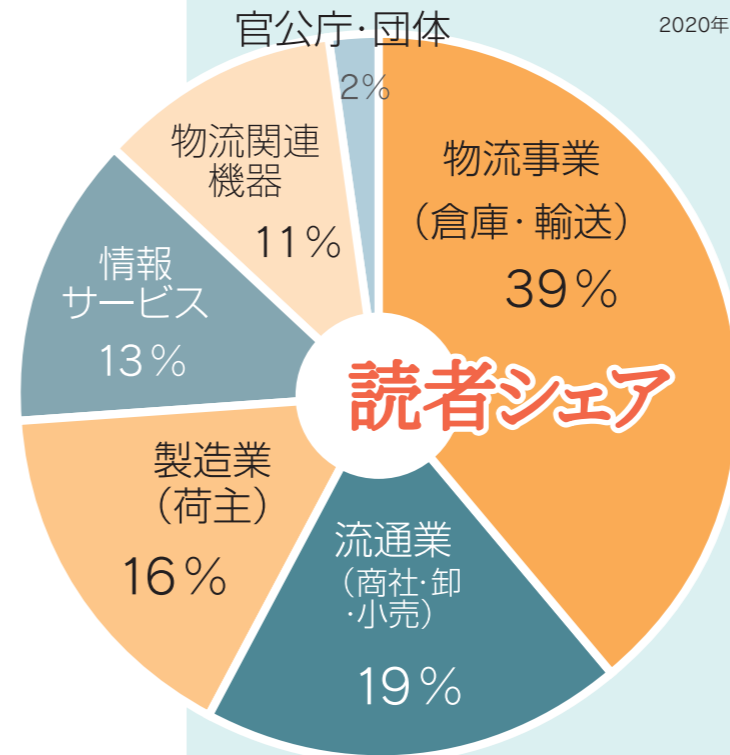
社名 運輸新聞株式会社  
代表者 代表取締役 野口香織  
所在地 本社 東京都荒川区西日暮里3-6-10 佐々木ビル3F 〒116-0013  
TEL 03・5685・0035 FAX 03・5685・0038  
関西支社 大阪府大阪市中央区瓦町1-3-2 ヒガシビル 〒541-0048  
TEL 06・6209・3261 FAX 06・6209・3262  
ホームページ <http://www.unyu.co.jp>

業務内容 運輸新聞の発行 / 委託編集 / 運輸関連のデータ処理 / 運輸関連の調査・出版 / 運輸関連VTRの企画・制作 / 前各号に付帯し、または関連する業務

所属記者クラブ 国土交通省交通運輸記者会 [国土交通省内] / 通運報道人連盟・通運記者会 [日通本社内] / 日本物流記者クラブ [物流連内] / 航空貨物記者会 / 流通政策研究会

## 沿革

- 1920年 ———— 鉄道省の協力のもとに月刊誌「運輸」を発行
- 1926年 ———— 「日刊運輸通信新聞」を発行
- 1945年 ———— 「日刊運輸通信新聞」の名称を「日刊運輸新聞」に変更  
第三種郵便指定認可
- 2020年 ———— 創業100年を迎える



1920年に運輸新聞の前身 月刊誌「運輸」が発行されてから 100年が経過しました。

運輸新聞は次の100年に向けて 今日も歩み続けます。

**大規模物流施設が消費地至近の2本柱で展開**

つまずき、約束を守ることが仕事です。

**KRS** 株式会社キユーソー流通システム

www.krs.co.jp/

**100th 私と物流**

グローバルで存在感のあるロジスティクスカンパニーに

プロテク物流 始まる!

**運輸新聞**

2021年 6月29日(火) 第17407号

「ドローンビジネス」ガイドライン策定 多頻度化、帰り荷確保を

物流複数化13%検討 BCP策定率や伸びる

航空局長に久保田氏

**人との共創を目指すロジスティクスシステム**

スマート物流の実現に向けて

その物流現場に、新たなピースを。

**RightPick** ロボットピッキングシステム [ライトピック]

okamura 株式会社オカマラ

https://www.okamura.co.jp/

**特別対談**

長尾 裕氏 (代表取締役社長)

中田信哉氏 (神奈川大学名誉教授)

**いつも見る風景に GOALやTMSにつながる情報がある**

**FRONTIER**

早い、読みやすい、役に立つ

運輸新聞は、最も早く、物流情報をお届けします。陸・海・空のすべてにわたる物流業界に関する行政・業界・企業情報を網羅することはもちろんのこと、一般産業界の物流に絡む動きをいち早く活字にし、コンパクトに読みやすくお届けいたします。早い、読みやすい、がモットーです。だから一日だけでは 運輸新聞の価値はわかりません。

川上から川下まで 企業のロジスティクス満載

物流に取り組むとき、荷主抜きに話は始まりません。大きく変化する日本の経済・一般企業の動きは、物流にも大きな影響を及ぼします。流通再編・共同化・国際化などに積極姿勢をみせる荷主・一般産業界・企業の動きを高感度で追跡していきます。「物流は現場」といわれます。物流現場の問題点・課題はなかなかクローズアップされることはありませんが、ここに効率化の宝が隠されています。物流現場を幅広く取材し、その課題を提示していきます。

プロの営業マンに必須

物流のプロとして日本の経済・社会を支える物流専門家。その動きは物流市場を動かすばかりでなく、物流形態も変えていきます。他の物流企業の動きは同業者の参考にもなりますが、物流業務自体がクロスオーバーに動く時代は“同業他社”であるかどうかは問題ではありません。自社以外の新たな動きには、目が離せません。ここでも、新しい情報をどんどんお届けします。

物流は、ハード、ソフトを含めたインフラ整備が前提です。ですから、行政や地方自治体の動きを軽視することはできません。いや、今こそ、行政や自治体がしっかりと将来を見据えた行動をとらなければならないでしょう。運輸新聞は、国土交通・経済産業・総務・環境・厚生労働など各省庁の取材を活発に行い、ホットな情報をお届けいたします。

読者とともに成長

運輸新聞は、読者とともに成長したいと思っています。読者の方々が日々の活動のなかでどう考えたらよいのか、業務の改善策はないのか、という時にお役に立つ講座を設け、その道のプロが物流現場の合理化手法・物流コストの考え方・情報システムの上手な活用法などをキメ細かく解説します。グローバルニュースから街角の物流ニュースまで、とにかく役に立つ情報を満載、だから 運輸新聞の価値は一日ではわかりません。